

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「創意 敢行」のもと、次の3点を基本目標とし、時代をたくましく生き抜く人材を育てる。

- 高い知性と創造的な能力を養う。
- 自他敬愛の精神と主体的な実践力を培う。
- 豊かな情操とたくましい心身を育てる。

2 学校の特徴

本校は、昭和61年開校、今年で創立39年目の普通科単独校である。平成28年より3学級体制となり、現在、3学年9クラス、352名の生徒が学んでいる。ほとんどの生徒が高等教育機関への進学を目指し、約4割の生徒が国公立大学合格を果たしている。

県内で唯一、「情報コース」を設置し、情報教育を核としながら、ICT機器を活用した授業を推進し、タブレット端末を活用した取組を実践している。

今年度から3年次に「情報Ⅱ」の選択履修が可能となった。情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力の育成を目指す。また、学校設定科目「情報課題研究」では、自然科学分野・人文社会分野の研究を班ごとに協力して行い、成果発表することを通して情報活用能力・発信力を養う。

キャリア教育にも力を入れている。多彩な進路ガイダンス・講演会、進路研修旅行、富山県立大学や近隣の私立大学での体験実習で進路意識の向上を図り、個人面談を中心としたきめ細かな進路指導を通して進路実現を支援している。

特別活動では、生徒主導による自治的・自発的な生徒会運営を目指し、生徒の主体性を生かした実践力・リーダーシップの向上を推進している。

環境教育や国際交流に重きを置き、平成9年から「高校生国際環境サミット」（現在の「CEI環境国際会議」）に参加し、これまでで通算9回の参加となった。平成25年度に大韓民国、平成28年度にロシアで開催された「北東アジア地域環境体験プログラム」にも参加し、積極的な国際交流に取り組んできた。令和2年にはCEI環境国際会議への参加や国際環境委員会の活動の成果が認められ、「地域環境保全功労者表彰（環境大臣表彰）」を受賞している。

3 学校の現状と課題

現在の本校生の意識と生活の実態を見ると、優しく素直な生徒が多く、学校生活に落ち着きがある反面、将来の目標実現に向けて積極的に立ち向かっていこうとする意欲やたくましさが乏しい。「自ら高い目標を持ち、意欲的に学習し、主体的に行動できる生徒をどのように育成するか」を学校課題とし、「大門高等学校グランドデザイン」で設定した卒業までに身につけてほしい6つの力を、授業や学校行事、部活動などあらゆる教育活動において育てていくことを目標とし、教育活動の一層の充実を図る。また、各学年3クラス編成の小規模校であることを強みとし、少人数ならではのきめ細かい指導を活かした大門高校独自の指導スタイルの確立を目指す。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動 重点1① 重点1②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力を育成するため、学習習慣の確立と学習意欲の向上を目指す。 ○生徒が能動的に学習できるような学習環境の構築を図る。 ○わかり易い授業・定着度の高い指導方法などを模索する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生に対してのオリエンテーションや年度当初の授業を通して、国数英を中心とする教科の学習についての初期指導を行う。 ○生徒自身が学習目標を設定し目標の達成に向けて取り組んでいくよう、意識づけを行う。 ○学習時間を調査し、学習習慣の実態を把握する。 ○教科面談や担任面談を通して学習方法の指導を行い、学習意欲の向上や学習内容の定着につなげる。 ○アクティブラーニング型授業やICT機器を活用した授業に関する研究・実践の機会を設ける。
2	学校生活 重点2① 重点2②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣（挨拶・時間・頭髪・服装）を確立するとともにマナーやルールを遵守する社会性を身につけさせる。 ○その時、その場で、どのような行動が適切か、自分で考え決めて実行する「自己指導能力」を育成する。 ○学校行事や委員会活動に積極的かつ主体的に取り組む態度や能力を養う。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を確立するために、自己指導能力や規範意識を高めるための声かけを積極的に行う。また、全教職員で指導に対する共通理解を図るとともに必要に応じて適切な個別指導を行う。 ○学校行事や委員会活動に生徒が積極的かつ主体的に取り組めるように、生徒会を中心に生徒の意見や要望を集約し反映する。
3	進路支援 重点3① 重点3②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の可能性を発見し、個性や能力に応じた進路目標を設定し、実現できるように支援する。 ○進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年と連携を図り、あらゆる行事や活動を進路指導に位置づけ、早期からのグラデュエーションポリシー自己評価やキャリアパスポート作成を通して、主体的に学ぶ態度の育成と進路意識の向上を図る。 ○学習・生活実態調査を実施し、生徒の実態を踏まえて担任や教科担当者との個人面接により、家庭での学習習慣を定着させ、目標実現のための学力をつける。 ○進路ガイダンス（1年）、進路研修旅行（2年）、高大連携事業（情報コース）、進路講演会（全学年）等を実施し、進路意識の高揚を図り、短期的な目標だけでなく、卒業後の進路を意識した長期的な目標を設定できるようにする。

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
4	特別活動	目標	○部活動及び地域活動や校外活動に積極的かつ主体的に参加することで、個性の伸長を図るとともに、利他の精神を育み、周囲と好ましい人間関係を構築できる態度や能力を養う。
	重点4① 重点4②	計画	○ <u>部活動を通して自己の成長が感じられるように、部活動に意欲的に参加させるとともに、日々の活動の取り組み方を考え工夫し、実行できるように指導する。</u> ○ <u>生徒会・委員会・HR等での地域ボランティア活動や行政主催の研修やボランティア活動への参加を積極的に呼びかけ、1人でも多くの生徒に校外活動を体験させる。</u>
5	その他	目標	○情報教育の推進を図るとともに、情報教育のあり方について継続的に見直しと改善を図る。 ○学校のICT環境を整備し、教員のICT指導力の向上を推進する。
	重点5① 重点5②	計画	○ <u>情報課題研究（情報コース及び文系選択）の授業において、生徒が研究の方針や手法を確認する機会を増やし、研究の信頼性を高める。</u> ○ <u>「1人1台タブレット端末」を使用できる環境を整備するとともに、講習会やマニュアルなどを充実させて、ICT機器の授業での活用を促進する。</u>

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度 大門高等学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初は大多数の生徒が学習に意欲的であるが、学習についていけない生徒や家庭学習時間を確保できない生徒が徐々に増加する傾向にある。各教科で高校での学習方法を最初に学ばせたりしているものの、学習意欲が持続しない生徒が少なくない。 ・課題を課したり面談を行ったりして家庭学習の習慣を身に付けさせるようにしているが、課題を提出することだけを目的とする生徒もおり、会得した内容に興味を持って学習を深めたり自発的な学習に繋がったりといった生徒はまだ少ない。 	
達成目標	① 1学期に設定した学習目標を達成できた実感する生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 年度当初より学習の理解が深まったと実感する生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	1学年 70%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な(具体的で実現可能な)目標が設定できるよう留意する。 ・毎日の学習状況や生活状況を振り返らせ、目標の実現が難しそうな生徒に対しては授業やHRおよび個人面談等を通してきめ細かく指導する。 ・教科間で課題の分量や提出期限を調整し、主体的に学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活状況を記録することで各自の学習時間を把握させ、家庭学習に必要な時間を確保するよう意識させる。 ・小テストやノート点検等を通して一人ひとりの学習状況を把握し、つまずきや苦手感覚の早期解消を図る。 ・生徒の学習意欲を喚起するような話題や題材を、授業や発展的な課題に盛り込むよう工夫する。

令和6年度 大門高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	学校生活	
重点課題	主体的な服装選択と学校行事及び委員会活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より衣替え期間を廃止し、気温や個人の体調に合わせて制服を選択できるように変更した。 ・きちんとした身なりができる生徒は多いが、指導されている生徒もいる。 ・真面目な生徒は多いが、自ら進んで意見を述べたり行動したりする生徒が少ない。 ・委員会の活動に前年踏襲が多く、新たな取り組みが少ない。 	
達成目標	① 主体的に身なりを整えたり、気温や個人の体調に合わせて制服を選択できたと感じる生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 学校行事や委員会活動に積極的に参加していると感じている生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	85%以上	75%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に身なりを整えることの大切さを折にふれて生徒に伝えていく。 ・全教員が、頭髪や服装に関する指導をスムーズに行えるように共通理解を図る。 ・きちんとした身なりができている生徒を積極的に褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の意見に耳を傾け、それを反映できるような学校行事となるように生徒会活動を充実させる。 ・各種委員会の活動を活性化させ、生徒の主体的な運営や活動を通して学校生活や諸活動に対する生徒の意欲や取り組む姿勢の向上を図る。

令和6年度 大門高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の確立及び実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年次における進路意識が乏しく、早期から将来を見据え、具体的な目標を持ち、対策を実践していくことが難しい。 ・ 自身の適性を考えたり興味ある進路先について調べたりして、主体的に進路目標の実現のための努力を行う生徒が少ない。 	
達成目標	① 3年次 進路志望実現達成度 国公立大学前期試験合格発表時点における志望進路決定者の割合	② 1・2年次 進路目標の明確化 1年次：学びたい分野を決定している生徒の割合 2年次：志望校を決定している生徒の割合 (1月に進路志望調査を実施)
	70%以上	1年次 80%以上 2年次 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣と学力の状況を把握し、個人面接などを利用して学習意欲を促すとともに十分な情報と適切なアドバイスのもと進路先の入念な検討を行う。 ・ 新入試に対応した問題研究や受験指導を実施し、校内・外部模試を活用して振り返りを促し着実に実力を向上させ進路目標の実現を図る。 ・ 全校体制で共通理解を図りながら、受験指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンス・進路研修旅行・高大連携事業(情報コース)、進路講演会等を活用し進路意識の向上を図る。 ・ 本校卒業生や保護者の方から直接話を聞く機会を設け、大学での学びや社会人としての生き方を実感させる。 ・ 主体的な進路研究を図るため、計画的にキャリア教育を推進し、個性や能力に応じた進路目標を設定できるようにする。

令和6年度 大門高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動に加入している生徒の割合は97.1%(昨年度92.9%)であり、継続して活動している生徒が増えている。 ・ 部活動に真剣に取り組んだ生徒は、進路実現に向けてもひたむきに努力し、志望校に合格している。 ・ 地域でのボランティア活動を計画する生徒やそれに参加する生徒がいる。 ・ 行政主催の研修やボランティア活動がコロナ前に戻り、増えている。 	
達成目標	① 部活動を通して自己の成長が感じられると思う生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 地域活動や校外活動に参加した生徒の割合
	80%以上	60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動登録の前に、高校での入部希望予備調査を行い、新入生の部活動選択を支援する。 ・ 部員同士の交流を図るために、合同部活動研修会を計画し実施する。 ・ 部活動の活性化を目指し、リーダーの育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の清掃活動や地域と連携した活動に参加する。 ・ 老人ホーム「こぶし園」を訪問し、交流を深める。 ・ 行政主催のボランティア養成研修等に参加するよう積極的に呼びかける。

令和6年度 大門高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	その他（情報教育）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信能力の育成 ・教員のICT活用能力の向上 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の「総合的な探究の時間」などで情報を収集し調査結果をまとめる学習活動を行っているが、検索結果の羅列に終わっている場合が少なくない。 ・大多数の教職員が授業等でICT機器を使用しているが、教職員が教材提示等に用いる場合が多く、生徒が使用する場面は少ない。 	
達成目標	① 生徒が探究活動や情報発信に取り組む機会を増やし、情報活用スキルを向上させる。	② 教職員によるタブレット端末等のICT機器の効果的な活用を促進する。
	1・2年生全員が、授業や「総合的な探究の時間」で学んだ内容について、それぞれ適切な方法で情報発信する回数	「1人1台タブレット端末」を生徒が使用する授業を、1回以上実施する教員の割合
	2回以上	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の機会を複数回設けることで経験を積ませ、スキル向上を図る。 ・展示・プレゼンテーション等の目的に合わせ、情報の見せ方・伝え方を工夫することを経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の要望を踏まえてICT機器を使い易い環境を整える。 ・ICT支援員の講習会等を通して教材や授業実践例を紹介するなど、タブレット端末の活用を促進する。